

令和5年度第2回

幸手市総合教育会議議事録

招 集 期 日	令和5年11月14日(火) 午前9時00分
開 会 場 所	幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A
開 会 の 日 時	令和5年11月14日(火) 午前9時00分
閉 会 の 日 時	令和5年11月14日(火) 午前10時00分

出席 状 況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	市 長	木村 純夫	出席	教育委員	高島 勝也	出席
	教 育 長	山西 実	出席	教育委員	藤沼 寛次	出席
	職務代理者	会田 研司	出席	教育委員	古沢 万友実	出席
	教育委員	岩崎 万紀子	出席			

傍聴人：0人

書記：関口 智章・河口 奈緒

議 事 参 与 者	職 名	氏 名	職 名	氏 名
	総合政策部長	落合和典		
	教 育 部 長	小林秀樹		
	政 策 課 長	中野仁美		
	総 務 課 長	服部道春		
	学校教育課長	堀越成夫		
	社会教育課長	仙田茂雄		
	政策課主席主幹	大竹孝典		

議 事	顛 末
<p><b>開 会</b> 午前9時00分</p> <p><b>あいさつ</b></p> <p><b>日程第1</b> <b>協議調整事項</b> <b>及び報告事項</b> <b>協議調整事項第2号</b> 今後の教育行政の推進 について</p>	<p>教育部長 開会を宣する。</p> <p>市長 あいさつする。</p> <p>教育部長 市長から2期目の市政を担うにあたって掲げられた公約のうち、教育行政の推進に関わる施策等について述べていただき、その後、委員の皆様から御意見やお考えを伺いたい。</p> <p>市長 はじめに、子どもを育てる若者世代を幸手市に呼び込み、定住促進を促すためには、教育環境を充実させるとともに、市全体の文化や教育水準を向上していく必要があると考える。 そこで、施策の1として、子どもたちや保護者にとって待ったなしの施策である「市内小・中学校の再編の推進」を掲げた。 「市内小・中学校の再編の推進」については、前回の総合教育会議で御報告いただいた「幸手市小・中学校適正規模・適正配置等に関する基本方針」をもとに、速やかに市としての方向性を検討し、年内には教育委員会へ報告できるよう担当部署へ指示したところである。 担当部署を中心に、市全体で、市としての方向性の決定に向けて協議しているが、学校再編については基本方針に示された二つの方針のとおり行うとともに、再編の時期については令和9年4月1日を目安とする方向で調整を進めている。今後、庁内会議で最終的な審議を行ったのち、年内には教育委員会へ報告させていただく。 次に、人口減少や少子高齢化は全国的な課題だが、本市においても人口減少に対応した行政運営を進め、市民が将来にわたって安全・安心に生活できるような環境を実現する必要があると考えている。 そこで、施策の2として、「安心して子育てができる社会の実現」を掲げ、教育分野では「市内小・中学校の給食</p>

費の無償化」を実施したいと考えている。

その他、今回の公約には掲げていないが、1期目の公約に掲げ、既に取り組んでいただいている施策として「小・中学生の基礎学力の向上」があるが、さらなる向上を目指して、今後も必要な施策を進めていただきたいと考えている。

また、世界で活躍できる人材を育てるため、現在、幸手市立中学校に在籍する中学校第3学年の生徒が、英検3級以上の級を受験した際の検定料の助成を行っているが、中学校の生徒が卒業までに英検3級を取得できるだけの英語力を身につけるための施策を引き続き進めていただきたい。

以上が、幸手市がより魅力あるまちになり、市民の皆様が「幸手市に住んでよかった」、「住み続けたい」と実感できるようにしていくために必要な公約のうち、教育委員会に取り組んでいただきたい施策や事業についてお話しさせていただきました。

本日は、委員の皆様豊かな識見に基づき、忌憚のない御意見をいただき、今後の市政運営に生かしてまいりたい。

#### 《意見交換》

藤沼委員

国の学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」という記述がある。1点目に、OECDの学びの羅針盤というルールがあり、これが1つの発信力になる。2点目にSDGs、3点目に幸手市の教育行政があり、これらをジョイントしながら、きちんと整理をして、校長を含めた全ての教員が把握する必要がある。

次に、国際社会で通用する教育の実践であるが、この制度プラスアルファは幸手市が得意とする分野である。これを磨き上げて、改革し、継続していくというところに力・アイデア・工夫を入れていかなければならない。

さらに、教育関係の従事者は単眼的思考になりやすいので、子どもたちには基本の前から複眼的思考で接してほしい。

子どもたちは素晴らしいカリキュラムに則ってやっている。一方で高齢者の方かというと、社会教育事業の責任は重大になっていく。少子高齢化の進展で地域の担い手が少なくなるということは、行政の仕事が増え、パンクし

てしまうので、キャパオーバーの分は地域に任せる必要が出てくる。任せる先はNPOや民間事業者も考えられ、先日の市民まつりが直近の成功事例だと私は考えている。

行政の仕事の補完など、市民が自分たちの福利厚生、地域のことを積極的にしていく必要がある。子どもたちだけの教育でなく、高齢者への教育も必要である。

岩崎委員

お願いが3つある。1つ目は義務教育学校について。この名前やシステムを知らない市民もいると思うので、十分に情報提供を行い、子どもたちのために実施する事業であることをアピールしてほしい。

2つ目は給食費の無償化について。保護者は、物価高騰の時勢で歓迎すると思うので、ぜひお願いしたい。なお、自校式の給食は継続してほしい。

3つ目は英語教育について。今度の結果のこともあるが、中学校第3学年だけではなく、もっと早いうちから助成してほしい。

高島委員

子育て世代を呼び込むということは、まずは国レベルで若者たちが希望を持てる社会を実現してもらう必要がある、地方行政ができる部分は少ないと思うが、それでも市長のような考えを持っていただくのは大変ありがたいと感じている。

基礎学力の向上のために、市独自の学力学習状況調査を実施することはとてもいいことである。教育委員会では、この結果を基にして、指導法の改善に生かしたり、教員が自己を振り返る材料にしなければならないといった話をしてきた。それには、学校が主体的に取り組むことが一番である。

幸手市の子どもたちの良さは、積極性や粘り強さ。他の自治体の子どもたちと学力を比較するのではなく、子どもたちが持っている良さがある。それを生かしてどのように学力を向上させていくのかという点については、学力学習状況調査を継続し、指導法の改善に繋げる取り組みを学校でやっていくことが一番重要。校長先生をはじめ、校内での研修体制の構築に取り組んでほしい。

古沢委員

2点申し上げたい。1点目は防災教育について。先日、幸手小学校で防災訓練が行われたが、地域の人と共に考

えるきっかけになったと思う。実際の災害をイメージして、周りの人と助け合うことや、子どもたちも自分の身は自分で守ること、自分で判断することは防災に限らず生き抜く力になる。学校の話は親の話より響くと思う。実際、災害はいつ起こるかわからないので、例えば下校時に発生したらどこに避難するのかとか、あらゆる場面を想定した多様な訓練が必要。しかし、全てを学校に任せるのも難しいので、授業参観の際に保護者に意識を持たせるとか、被災者の声を聴く機会を設けるのもいいのではないか。そういったことを地域の人にも知っていただくよう、開かれた学校づくりを意識してほしい。

2点目は社会教育について。文化祭は大盛況だった。アスカル幸手で劇団四季のミュージカルが開催された際、満席の会場に3歳未満の子もいた。本物の芸術を間近で見える機会は子どもにとっても貴重である。伝統的な文化価値の創造をまちづくりに生かしていただくとともに、芸術に携わる人材発掘・育成にも取り組んでいただきたい。

会田職務代理者

市長に感謝する。現在の教育の状況は、学校再編があり、統合が進めばスクールバスの手配があるなど、新しい仕事が発生する。また、GIGA スクール構想の実現に向けたタブレット端末の配布や、小学校での外国語活動の実施、教職員の働き方改革による部活動の地域移行など課題が多い時期に差し掛かっている。新しい事業や課題に対応できるよう、教育委員会の人材を増やしてほしいと願う。

また、給食費の無償化が公約に掲げられていることは非常にありがたい。ある程度の賛同が得られないと、難しいこともあると思うが、他市町に先駆けて実現してほしい。

市庁舎建設や消防庁舎の建替えなど喫緊の課題もあるが、外国語教育や入間市との交流など、細かいところも含め今まで以上の予算措置をお願いする。

幸手市の教育が変わったとか、子育てに優しいまちと思ってもらうためには、学力向上をすべての学校で目指すことはもちろんだが、公立学校は学力だけでなく知・徳・体が求められる。上高野小学校の開校150周年記念やさかえ小学校の研究委嘱も先生は頑張っているし、子ど

もたちもよく反応している。点数に囚われず一人一人を見て個性を引き出し、良いところを見つけてあげることも教員の仕事である。点数にこだわって頑張ることも必要だが、運動なども含めて学力であり、知・徳・体のバランスが大切である。

市長

認知能力は学力、非認知能力はたくましさや生き抜く力と言われている。長い人生、社会に出てからの方が圧倒的に長く、そこを生き抜くための基礎的な認知教育・非認知教育が大切と考えている。

教員が学力を育てるのは当たり前で、児童・生徒が持っている良さを見出すことは、教員の情熱にかかっている。大人になって小学校・中学校時代を振り返ったとき、あの時の先生はよかったと思ってもらえるよう、先生の情熱をどう上げていくかということを教育委員会にお願いしたい。

また、文化・芸術・スポーツが持つ魅力をどう生かしていくか、市の職員と共に考えていきたい。幸手市民が集まって文化・芸術・スポーツを一所懸命、楽しくやって、その延長線上で「いいまちだ」「熱気のあるまちだ」「あんなところへ行ってみたい、住んでみたい」となってくると思う。住んでいただくことが目的ではなく、喜びの中で文化・芸術・スポーツに取り組んでいくことがとても大切である。この辺はもっと工夫を凝らして発信していきたいと思う。

その情報発信について、幸手市は遅れていると感じる。いろいろ取り組んではいるが、それが上手に発信されていない。同じことをやっても、発信の仕方ですぐ変わるといったイメージがあるので、しっかりテコ入れをしていく必要があると考えている。

幸手市に限らず、全国的に少子高齢化の中で学校教育そのものも曲がり角にあって、これは避けて通れない。叡智を絞って子どもたちをどう育てていくのか、我々の責務と思いき所懸命取り組んでいただけるとありがたい。

教育長

今日の協議は、大変多岐にわたった。急激な対応が迫られる学校教育のみならず、社会教育事業、文化財、文化的な人材の発掘などにわたり貴重なご意見をいただいた。

また、子どもたちを支える環境や学校の条件整備の充

<p><b>日程第 2 その他</b></p> <p><b>閉 会</b> 午前 10 時 00 分</p>	<p>実などについても要望をいただいた。</p> <p>市長からも、全力をかけて教育を大事にしていくという言葉をいただいたり、そこに予算を投入していくという提案をいただいたりした。</p> <p>市長の英断により、組織と人を改革していく中で、教育委員会事務局の改革が学校現場の改革に繋がり、社会教育の改革に繋がっていく。</p> <p>保護者からは、家へ帰っても読む本がない、宿題を出さないでほしいというような電話が学校にかかっているという状況がある。体力は県内トップクラスにありながら、認知能力は小学校では高い水準を維持しているが、中学校に進学すると下がってしまう、というメカニズムを解明し、それを支える条件整備を真剣に考えるべきである。</p> <p>新たな教育も入ってくる中で、考える範疇も広範で複雑化、困難化していることから、教育委員の皆さんから今後も広く意見をいただけるようお願いする。</p> <p>第 4 回総合教育会議の日程について調整を図った結果、次のとおり決定する。</p> <p>日時 令和 6 年 2 月 13 日 (火) 午前 9 時</p> <p>場所 幸手市役所本庁舎 3 階 第 1 委員会室</p> <p>教育部長 閉会を宣す。</p>
--	---

他特に重要 と認める事項	なし
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和5年12月12日</p> <p>教育委員会 会田 研司</p> <p>教育委員会 古沢 万友実</p>